

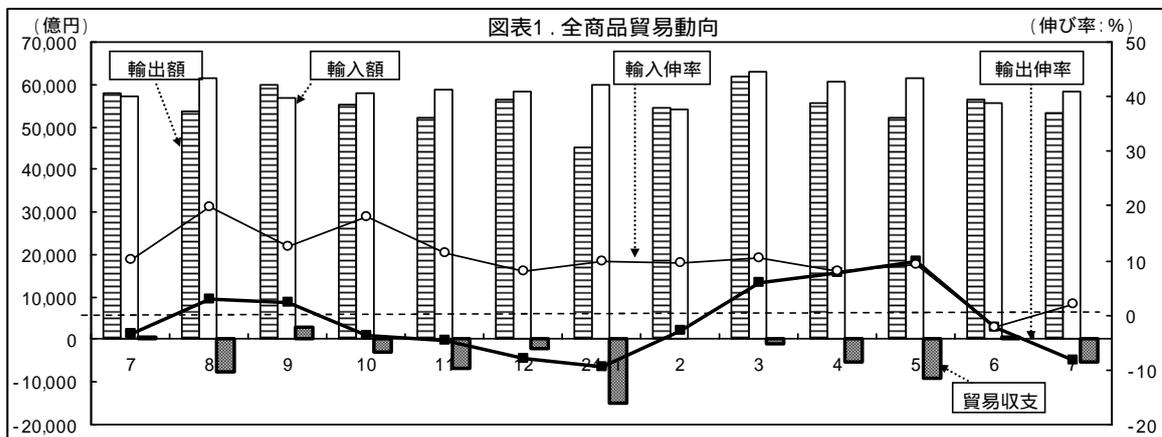
最近の機械貿易動向(7月)～機械輸出は6ヶ月ぶりの大幅減少～

日本機械輸出組合 2012.9.14

7月の機械輸出額は、3兆5,170億円、対前年同月比7.5%減と大幅に減少した(6月0.5%増)。これは、景気低迷続くEU、中国向けが2ケタの大幅減となったこと、機械輸出額の約1/3の自動車が増に鈍化したこと(前月10.8%増)、為替、営業日は3%の増加要因であったが、実質的な伸びが大幅に減少したことによる。8月については、円高が高進し、対ユーロでは最高値となったが前年の対ドルレートは更に円高であったため、0.2%の僅かな為替減少要因となった。仮に7月の実質的伸び(10.5%減)が続くとすれば、10%以上の減少となる。因みに8月上中旬の全商品輸出額は12.9%減である。

1. 全商品貿易動向～輸出は減少幅拡大、輸入は一転増加で2ヶ月ぶりの貿易赤字～

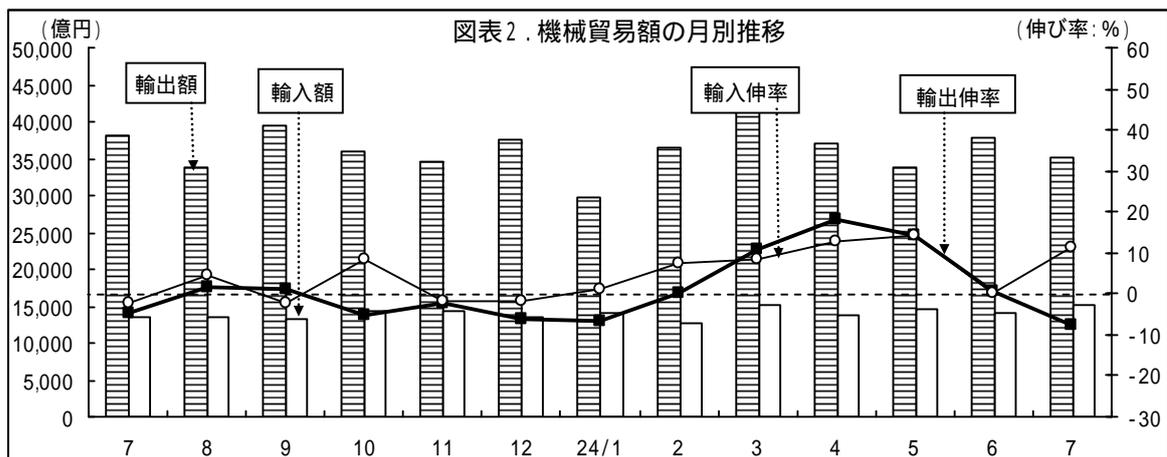
- 1)平成24年7月の全商品輸出額は5兆3,130億円、前年同月比(以下同じ)8.1%減とマイナス幅を拡大させ2ヶ月連続の減少となった(6月2.3%減)。これは、全輸出額の20%を占める電算機等一般機械(13.5%減)、18%の電気機器(9.2%減)、10%の科学光学機器(14.9%減)等が減少したことによる。
- 2)輸入額は5兆8,319億円、前年同月比2.1%増と再び増加に転じた(6月2.2%減)。これは、原発を代替する火力発電の燃料で、全輸入額の10%を占める液化天然ガス(24.2%増)、3.5%の航空機类等輸送用機器(70.1%増)、約13%の通信機等電気機器(8.0%増)等が増加したためである。
- 3)この結果、7月の貿易収支は輸出の減少幅が拡大する一方、輸入が増加となったため前月の黒字から一転、5,174億円の大幅な貿易赤字となった。



2. 機械貿易動向

(1) 機械輸出入動向～機械輸出は6ヶ月ぶりの大幅減少～

- 1)全商品輸出額の約66%を占める7月の機械輸出額は3兆5,170億円、7.5%減と半年ぶりに減少となった(6月0.5%増)。輸出額の水準は、リーマンショック前(平成20年7月)と比べると、70%と前月より9ポイントと大きく後退した(6月79.0%)。
- 2)一方、全商品輸入額の約26%を占める機械輸入額は、1兆5,102億円、11.4%増と2ケタの増加となった(6月0.2%増)。輸入額の水準は、リーマンショック以前の91.4%と前月より約7ポイント上昇した(6月84.0%)。

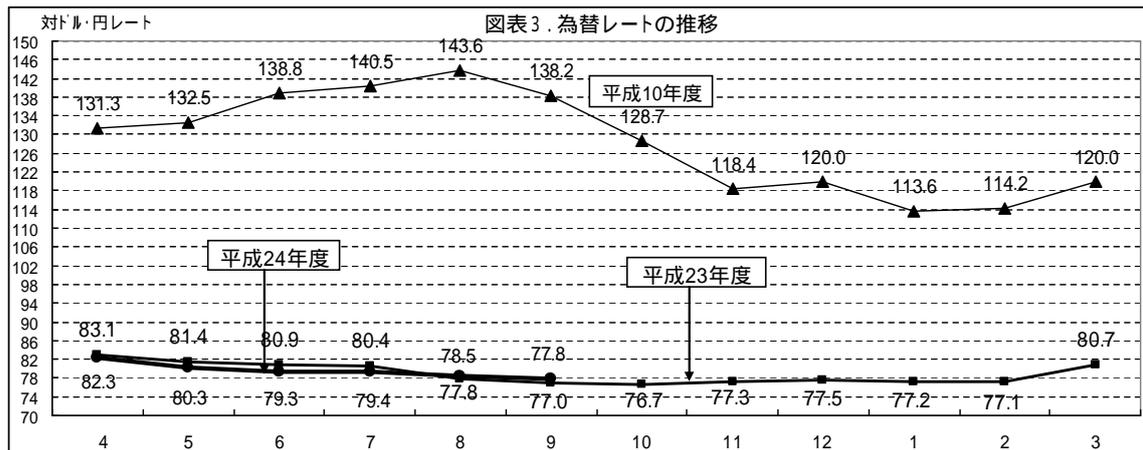


(2) 為替動向・営業日～7月は為替・営業日で3%の増加、8月は0.9%の減少要因～

1) 7月は1ドル = 79.4円と欧州信用不安で円高が高止まりし、1.2%円高となった。また、対ユーロでは98.9円と過去最高値で14.1%の円高となり、合わせて2%の減少要因となった。営業日は1日多いので5%増となり、合計3%の増加要因となった。7月の輸出額は7.5%減であったことから、実質的伸び率は10.5%減と大幅に減少した(6月7.4%増)。

2) 8月は1ドル = 78.5円と欧州信用不安で円高は更に高進したが、前年がそれを上回っているため、0.9%の円安となった。また、対ユーロでは96.4円と過去最大の円高となり、前年に対し13.3%の円高となり、合わせて0.9%の僅かな減少要因となった。営業日は同じなので、合計0.9%の減少要因となる。

3) 9月は、対ドルが現状の77.8円とすれば、前年が超円高であったので逆に1%の円安となり、また、対ユーロが100.1円とすれば7.3%の円高となり、合わせると0.2%の僅かな為替減少要因となる。営業日は1日少ないので5%の減少要因となり、合計5.2%の減少要因となる。



(3) 地域別動向～欧州債務危機の影響によりEU、中国向けは大幅減少～

1) 機械輸出が減少した地域的要因は、機械輸出額の10%を占めるEU向けで、域内経済の停滞で輸出額の17%を占める産業機械(32.3%減)、電子デバイス(45.7%減)、1/3を占める自動車(20.8%減)等が減少し、25.9%減と大幅なマイナスとなったこと、約18%を占める中国向けでは、全体の19%を占める半導体製造装置等産業機械(20.6%減)、建設機械(56.0%減)、繊維機械(44.1%減)等が大幅に減少し、14.6%減のマイナスとなったこと、28%と最大輸出先のNIES/ASEAN向けでは、シンガポール、韓国、マレーシア、香港、台湾が2ケタの大幅減となり、業種では、船舶、光学機械、工作機械、半導体製造装置、自動車部品、重電気機械、軽電気機械等がマイナスとなり、7.5%減となったこと、21%を占めるその他地域向けでは、大洋州(11.4%減)、インド(7.1%減)、チリ等中南米(5.8%減)がマイナスとなり、機種では、全体の15%を占める船舶(8.8%減)、産業機械(7.2%減)、重電気機械(6.2%減)等の減少が響き2.1%減の減少となったこと等、による。

2) 他方、機械輸出額の約23%を占める北米向けは、輸出額の48%を占める自動車(12.3%増)が2ケタを維持したほか、建設機械(51.1%増)、重電気機械(26.2%増)、工作機械(20.4%増)等の大幅増が寄与し、5.7%増と9ヶ月連続でプラスを維持した。

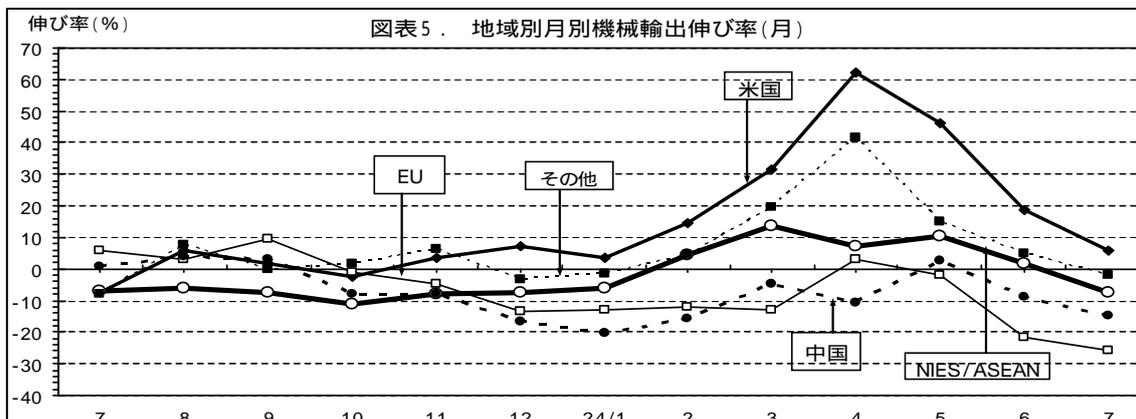
3) また、リーマンショック前の平成20年7月の地域別輸出額と比較すると、水準を超えたのは皆無で、中国が80%台、北米、NIES/ASEANは70%台、その他の地域は50%台、EUは40%台に留まっている。

図表4. 最近の地域別機械輸出動向

(単位: 億円)

	2012/5			2012/6			2012/7			対08年7月比
	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	
全世界計	33,661	14.5	100	37,819	0.5	100	35,170	7.5	100	0.69
北米	7,579	46.2	22.5	8,433	18.7	22.3	7,977	5.9	22.7	0.77
EU	3,845	1.8	11.4	3,776	21.7	10.0	3,594	25.9	10.2	0.46
NIES/ASEAN	9,452	10.4	28.1	10,791	1.5	28.5	9,919	7.5	28.2	0.78
中国	5,818	2.7	17.3	6,451	8.9	17.1	6,247	14.6	17.8	0.89
その他	6,967	14.8	20.7	8,369	4.8	22.1	7,433	2.1	21.1	0.58

は、2ヶ月連続で前年比10%以上プラス。



図表6. NIES/ASEAN・その他地域向け機械輸出の推移(月別) (金額単位: 億円)

国名	2012/4		2012/5		2012/6		2012/7	
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率
韓国	1,766	4.5	1,530	7.9	1,577	20.5	1,579	17.5
台湾	1,578	11.9	1,526	6.3	1,688	9.6	1,551	12.4
香港	1,518	3.2	1,286	3.8	1,653	1.4	1,431	13.6
タイ	1,978	29.1	1,743	39.2	2,007	28.7	1,875	12.6
シンガポール	885	5.2	849	10.3	1,065	3.9	801	34.7
インドネシア	1,015	56.7	941	64.7	1,021	22.0	861	1.9
マレーシア	705	1.0	693	4.7	793	2.6	714	15.2
フィリピン	575	38.4	517	24.4	557	28.9	564	27.4
ベトナム	354	24.4	271	21.8	359	10.9	456	48.9
その他地域								
中南米	2,768	17.8	2,102	13.3	2,956	8.3	2,351	5.8
中近東	1,452	124.4	1,314	64.7	1,478	11.0	1,412	9.3
大洋州	1,412	117.5	1,067	30.8	1,208	7.0	1,087	11.4
ロシア東欧等	1,291	50.5	1,117	15.3	1,237	7.4	1,325	1.3
アフリカ	673	5.2	903	48.8	952	15.7	723	7.3
インド	415	7.4	371	9.6	402	15.2	452	7.1

は、2ヶ月連続で前年同月比プラス(10%以上)

(4) 業種別動向～産業機械、船舶等15業種でマイナス～

1) 業種別では、全19業種中マイナスとなったのが15業種で、前月より2業種増加した。全体の約17%を占める産業機械(17.8%減、13ヶ月連続)、船舶(15.7%減)、通信機械(24.9%減)、電子計算機(20.9%減)、陸用内燃機(27.7%減)、繊維機械(34.1%減、12ヶ月連続)等が大幅なマイナスとなった。

また、全体の34%を占める自動車が2.5%増と伸び率を大幅に鈍化させた。

他方、比較的高い伸びとなったのは工作機械(9.7%増)のみであった。

2) この結果、リーマンショック前の水準を超えているのが工作機械、医療機械の2業種で、他方、電子計算機、通信機械、産業車両、民生用電子機械は、30～50%台の低い水準に留まっている。

図表7 上位19業種の輸出額の動き

(単位: 億円、%)

2012/5			2012/6			2012/7			対08/7比
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	
自動車	11,415	66.9	自動車	12,337	10.8	自動車	11,964	2.5	
産業機械	5,770	9.0	産業機械	6,231	12.6	産業機械	5,790	17.8	
電子デバイス	2,565	6.7	電子デバイス	2,824	6.5	電子デバイス	2,734	13.8	
船舶	1,581	13.6	船舶	2,613	19.5	船舶	1,436	15.7	
軽電気機械	1,673	0.2	軽電気機械	1,922	4.5	軽電気機械	1,836	14.5	
民生用電子機械	1,591	5.2	民生用電子機械	1,889	0.9	民生用電子機械	1,735	13.6	
重電気機械	1,694	11.9	重電気機械	1,879	2.5	重電気機械	1,781	5.2	
軽機械	1,237	23.0	軽機械	1,406	12.4	軽機械	1,355	1.4	
光学機械	1,140	4.8	光学機械	1,259	8.3	光学機械	1,266	12.0	
建設機械	1,090	9.4	建設機械	1,240	0.1	建設機械	1,126	0.7	
工作機械	796	18.0	工作機械	856	4.8	工作機械	956	9.7	
通信機械	388	4.6	通信機械	430	15.2	通信機械	389	24.9	
電子計算機	361	6.0	電子計算機	403	17.7	電子計算機	371	20.9	
ベアリング	347	3.4	ベアリング	388	8.8	ベアリング	366	13.7	
陸用内燃機関	319	6.0	陸用内燃機関	344	21.5	陸用内燃機関	313	27.7	
医療機械	278	3.7	医療機械	310	5.6	医療機械	288	10.4	
繊維機械	162	21.4	繊維機械	153	31.6	繊維機械	145	34.1	
農業機械	120	3.7	農業機械	157	2.9	農業機械	136	15.7	
産業車両	112	2.2	産業車両	120	20.9	産業車両	128	13.0	
19業種合計	32,639	97.0	19業種合計	36,761	97.2	19業種合計	34,115	97.0	

は2ヶ月以上連続で10%以上増加。・民生用電子機械: デジカメ、TV、部品。電子計算機: ハードディスク、HDD、プリンター等部品。

軽電気機械: 白物家電、電子計測器。軽機械: 分析器。光学機械: 光学材料、カメラ。

(5) 機種別動向～発電機、電子応用装置は2ケタ増、他方、電池、録画・再生機は大幅減～

- 1) 高い伸び率を示した機種は、ASEAN(11倍増)、中国等向け発電機(42.7%増)、韓国・台湾(92.4%増)、ASEAN(約2.2倍増)等向け電子顕微鏡等電子応用装置(21.6%増)である。
- 2) 一方、最も落込み幅が大きいのが、電池(54.0%減)、録画再生機器(45.9%減)、半導体製造装置(36.0%減)、繊維機械(34.1%減)、陸用内燃機関(27.7%減)、TV(27.3%減)、通信機器(24.9%減)、原動力機械(19.5%減)、風水力機械(17.1%減)であった。

図表8. 伸び率上位機種(月50億円以上、前年比伸び率10%以上、10機種以内) (単位:億円)

2012/5			2012/6			2012/7		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
発電機	178	100.5	発電機	145	64.7	発電機	169	42.7
乗用車	6,445	93.5	金属加工機械	323	28.4	電子応用装置	54	21.6
自動車部品	3,881	42.6	船舶	2,613	19.5	機種合計	223	0.6%
建設機械	1,090	35.2	自動車部品	4,187	17.3			
分析・試験・検査機	692	29.0	電気・電子計測器	504	15.3			
デジカメ	581	24.6	分析・試験・検査機	790	12.6			
電気・電子計測器	398	21.8	貨物自動車	884	11.9			
電子応用装置	50	20.4	時計	103	11.3			
工作機械	796	18.0	機種合計	9,549	25.2%			
産業用ロボット	90	14.8						
機種合計	14,201	42.2%						

は、2ヶ月連続で上位機種・機種合計の%は輸出額に占める割合

図表9. マイナス伸び率上位機種(月3億円以上、10%減以上、10機種以内) (単位:億円)

2012/5			2012/6			2012/7		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
電池	152	50.3	電池	168	55.4	電池	181	54.0
半導体製造装置	956	37.0	半導体製造装置	984	39.7	録画・再生機器	13	45.9
繊維機械	162	21.4	繊維機械	153	31.6	半導体製造装置	911	36.0
風水力機械	560	19.1	原動力機械	291	23.4	繊維機械	145	34.1
船舶	1,581	13.6	陸用内燃機関	344	21.5	電子デバイス	22	31.6
金属加工機械	251	11.6	産業車両	120	20.9	陸用内燃機関	313	27.7
機種合計	3,662	10.9%	録画・再生機器	14	16.0	TV	67	27.3
			通信機器	430	15.2	通信機器	389	24.9
			TV	67	14.1	原動力機械	372	19.5
			産業機械	6231	12.6	風水力機械	582	17.1
			機種合計	8,802	23.3%	機種合計	2,995	8.5%

は、2ヶ月連続でマイナス上位10位内 *機種合計の%は機械輸出額に対する割合

(6) 機械輸入動向～航空機、乗用車、自動車部品、携帯電話、民生用電子部品等が大幅増～

- 1) 7月の機械輸入伸び率は11.4%増と大幅に増加した。その要因は、二大輸入機種である電子デバイスが約9%増となったほか、自動車部品(56.8%増、12ヶ月連続増)、携帯電話(31.2%増)、乗用車(62.8%増、12ヶ月連続増)、航空機(77.7%増、7ヶ月連続増)、光学機械(22.9%増)、民生用電子部品(28.2%増)等が2ケタの大幅増となったためである。他方、マイナスとなったのは二大輸入機種である電子計算機(5.3%減)、重電気機械(5.1%減)の2機種のみであった。
- 2) なお、輸入額が輸出額を上回っている機種は、電子計算機、携帯電話、白物家電、エアコン、医療機器、TV、時計、録画・再生機器、ラジオとなっている。
- 3) 地域別機械輸入額は、中国(5.1%増)、ASEAN(14.6%増)、EU(22.2%増)、韓国・台湾(12.8%増)、北米(15.5%増)の順となっている。

図表10. 機械輸入額上位12機種 (単位:億円、%)

2012/5				2012/6				2012/7			
機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア
電子計算機	1,689	6.7	11.6	電子デバイス	1,507	2.4	10.7	電子計算機	1,588	5.3	10.5
電子デバイス	1,477	2.3	10.1	電子計算機	1,504	5.0	10.6	電子デバイス	1,564	8.7	10.4
白物家電	773	27.2	5.3	白物家電	763	6.5	5.4	自動車部品	872	56.8	5.8
乗用車	770	61.4	5.3	携帯電話	706	9.5	5.0	携帯電話	862	31.2	5.7
自動車部品	705	63.1	4.8	乗用車	686	24.3	4.9	乗用車	757	62.8	5.0
重電気機械	662	15.5	4.5	自動車部品	674	40.9	4.8	白物家電	695	2.9	4.6
携帯電話	491	14.9	3.4	重電気機械	656	22.5	4.6	重電気機械	676	5.1	4.5
医療機器	464	9.9	3.2	航空機	530	104.8	3.7	医療機器	512	16.7	3.4
航空機	414	80.4	2.8	医療機器	447	9.1	3.2	航空機	407	77.7	2.7
民生用電子部品	355	40.5	2.4	光学機械	352	7.2	2.5	光学機械	390	22.9	2.6
光学機械	347	8.9	2.4	民生用電子部品	325	12.1	2.3	民生用電子部品	379	28.2	2.5
分析・試験・検査機	262	14.3	1.8	分析・試験・検査機	255	11.2	1.8	分析・試験・検査機	254	4.3	1.7
12機種合計	8,409		57.7	12機種合計	8,405		59.4	12機種合計	8,956		59.3

は対前年比が2ヶ月連続で10%以上増加。白物家電:民生用電気機械